

医師の視点×患者の視点 次世代の真・バリアフリー住宅

前編

「ずっと家で過ごしたい…」 そんな当たり前前の願いのために

年齢や病気、障がいなどで医療や介護のサポートが必要だが、自宅で家族と暮らしたい。当たり前前の願いです。在宅医療・介護は大変なこと。「どうすればいいの?」全国から上がる声に、今、新しい試みが始まっています。

それは「在宅医療・介護を前提とした真のバリアフリー住宅」。実現したのは住宅メーカーではなく「医師」土井淳さん。「在宅医療・介護はハード面からの改善が必要です。施設ではなく自宅で過ごすための理想的な住まいを提案しました」



ハーベストクラフト株式会社
代表取締役
医学博士 土井 淳

「医療介護をハード面からサポートの志のもと、現場で「あったらいいな」と思える製品を次々と提案。」

松原市出身の土井さんは現在、東京都で一般病院での診療業務に加え、年間500件以上の訪問診療を行うなど積極的に地域医療に携わっています。

「私自身若い頃からベテラン病で心臓を患い、これまで4度手術をしました。当時は大病院の医師でしたが自分が患者となり治療される側の苦しさや身に沁みました。これからは患者さんとの距離が近い地域医療で診療に携わっていきたい」と思い大病院を退職。今に至ります。

ベテラン訪問医であり難病患者でもある土井さんだからこそ、双方の目線がわかるそうです。

「例えば退院し、動けないまま普段の家に戻ります。するとトイレが狭くて介助できない、1cmの段差で進めない…。バリアフリー仕様でも治療や介護に使いがたい、患者さんに弊害がある。すると、家族も頑張りきれなくなってしまう。それが在宅医療・介護の現状のひとつです」

**自由で快適な我が家
でも病室レベルのバリアフリー**

「ハード面からの発想が必要」と考えた土井さんは、「家を病室レベルのバリアフリーに」という構想に辿り着きます。「施設はバリアフリーですが、『自宅で過ごしたい』という願いには応えきれません。病

室レベルに整った住まいで訪問サポートを受け自由に暮らす。そんな選択肢を作りました。

あらゆる世代、どんなハンディでも使いやすい次世代の真・バリアフリー住宅

7月完成予定「ハーベストビレッジ西大塚」



「これは医療面からの初めての提案ではないでしょうか。こうした真のバリアフリー住宅は、障がいのある方、子育て中の方にも求められているはず。このような試みが自分の生まれ故郷である大阪から、将来大きく広がれば…」

「そんな間取りなら医者は治療でこう動く、患者さんはこうなる、と双方の立場だからわかります。現場を知る医者として、患者として、『これなら間違い』という住まい。プライバシーも自由も守られ家族と暮らせる『我が家』です。」

「ここで実家の跡地に作ったのが、この「ハーベストビレッジ西大塚」です。」

「施工をお願いした積水ハウス様と繰り返し打ち合わせを行い、特にトイレやお風呂などの水回り部分の使いやすさに関してとことんこだわり抜きました。」

医療介護
最前線
レポート
保存版

「いっか来るその時」のために…切り取って保存してください!



近鉄南大阪線「専我ノ荘」駅徒歩13分または市内公共施設巡回バス「ぐるりん号」大塚運動広場停留所すぐ

●内覧会 7/7(木)・8(金)・9(土) 10時～16時
希望者は積水ハウス 大阪南シャームーン支店
総合受付 ☎06-6648-6561まで

●入居に関しての問い合わせ先
株式会社レンタックス 総合受付 ☎06-6990-7023

今回は設備詳細と見学会をご紹介します。

取材協力・お問い合わせ



「医療・介護現場のあったらいいな」を考える

ハーベストクラフト株式会社

j.doi@harvestcraft.co.jp

〒195-0072 東京都町田市金井6-1-6
https://www.harvestcraft.co.jp

